

## 三社権現

高尾山中腹に、日吉山王大権現・熊野山大権現・金比羅大権現が祭っており、そばに地藏菩薩などの二石像がある。

権現の権は「仮」の意味で、かりに現われることをいい、仏や菩薩が色々な姿になって現われ、衆生を救済するといわれている。

日吉山王大権現には、抑四国霊地天保六乙未、遠石千日山安置之処今年、再當寺中引越之因命而、今粵安置者也。時嘉永二巳酉四月當山十四世、報世代と彫ってある。

熊野山大権現には、施主山田秀熊・谷野金助・國廣治郎左エ門・國廣吉左エ門と、金比羅大権現には、施主御家中某・木村栄助・宮崎勝之丞・久村卯兵衛と彫ってある。



## 三石像

興元寺山山頂に、不動明王・行者堂・石槌社の三石像が建っている。

不動明王は36番なみきり不動尊が祭ってある。不動明王は、アチャラ・ナータを語源とし、アチャラとは動かないものをいい、インドでは山を指さす。ナータは、主人とか尊敬する人の意味であることから、不動尊と呼ばれ、大日如来の命をうけて、人々の煩惱を断ち切るために働くといわれている。

行者堂は役行者（えんのぎょうじゃ）、本名は役小角（えんのおづね）の尊像が安置されている。役行者は、幼少の頃から神童の間えが高く、奈良時代に山岳を舞台として活躍した修げん者で、加持祈禱を主とする修げん道の祖として神格化された。

いつも一本歯の高下駄をはき、白ひげをたらし、大刀をもち、錫杖（しゃくじょう）をつき、山野で難行・苦行することから、足の神として各地で山岳信仰の山の境域に建立されている。このお堂は安永7年（1778年）に武運長久と諸願成就を祈念して、新町講中のかたがたが建てたと彫ってある。

石槌社は野上の庄を鎮守の意により、天正2年（1574年）興元寺建立とともに、四国石槌山権現を勧請したと伝えられている。修げん道の開祖、役小角が開山したといわれ、朝廷、諸将の宗敬が厚く、石土蔵王大権現として信仰されている。

不動明王の縁日は9月28日で、当日は興元寺において供養が行われ、多数の参りい者がある。